

B-27 靴下の着用・洗淨による性能の変化  
広島女大家政 水野上与志子

目的 被服衛生上又は礼装上の目的から靴下の着用頻度は肌着に次いで高い。靴下は皮膚からの分泌物による汚染と共に、外界環境からの塵埃による汚染も加わり、衣服中最も高い汚染度を示す。そこで靴下の洗淨も殆んど毎日実施され、着用・洗淨がくり返される。今回は婦人用ナイロン織維パンテーストッキングについて、着用・洗淨の過程に生じる種々の変化(汚染状態・物理的損傷・洗淨による損傷・ピリング発生・ラン抵抗・強度低下・摩擦強度・通気性等)について検討し、靴下を被服衛生的に又耐久的に着用・洗淨する方法について考究する。

方法 1) 供試靴下はノ5~ノ7のパンテーストッキング3種(マルケス種・プレーン種) 2) 着用者は女子大生9名、成人女性2名とし、1日8時間着用後毎回洗淨 3) 洗淨剤は高級アルキール系洗剤と脂肪酸ナトリウム 4) 洗淨法は手洗いと電氣洗たく機 5) 乾燥は日陰及び直射日光 6) 着用靴下のCEL量、一般細菌、真菌数 7) まさつ試験によりピリング発生・破損回数測定 8) 原布・洗淨布の強度測定 9) ラン抵抗の測定 10) ピリングテスト 11) 保温性・通気性の測定

結果 1) 着用中の物理的損傷(ひきつり及びラン発生)は1回着用で2足、2回で4、6回で7、計13足で着用靴下の半数 2) 5、6月は一般細菌、7月は真菌数が多い 3) CEL量は綿靴下より少なく透過量は多い 4) 洗たく機洗淨ではピリングは2回より生じ、3回洗淨では破損した、手洗い洗淨ではピリング発生は少なく9回洗淨で損傷がみられた 5) マルケスの強度は8ヶ月、プレーンは3ヶ月で着用・洗淨で低下